

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520572

研究課題名(和文)日本語教育史のコンテンツの再構成と史料公開に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Study for reconstituting the contents of history of Japanese teaching and creating a website for sharing the historical sources

研究代表者

小川 誉子美 (OGAWA, Yoshimi)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号：50251773

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本語教育史は、歴史資料のデジタル化に伴い、多様な資料の利用が可能となり、新たな成果が今後益々期待される分野である。本課題では、当分野への関心を促すために、前科研(課題名：日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的研究)に続き、資料・研究情報を提供するホームページを立ち上げ、オンライン資料のほか、研究テーマの具体例と先行研究に関する情報を掲載した。一連の情報の公開にあたり、中国人留学生の割合や中国国内での需要も高いことから、中国語版も作成した。

研究成果の概要(英文)：Along with the digitization of historical documents, history of Japanese teaching is expected for more and more developed in future, with use a variety of materials. To take over the previous research topic :basic study for the text making the history of Japanese language teaching, this research was conducted in order to arouse an interest in this field, to launch a website to provide sources and research information, we posted information about the research theme and previous studies beside the online documentation. Upon disclose a series of information, since it is also high demand in the Chinese students and China, we provided a Chinese version.

研究分野：日本語教育史

キーワード：日本語教育史 研究資料 研究課題 資料公開 デジタルアーカイブ

1. 研究開始当初の背景

日本語教育が行われてきた時代や地域は広範囲に渡り、そこには数々の史実が眠っている。こうした史実から得られる知見は、今日の課題に示唆を与え、有意義な議論に発展することもしばしばある。しかし、日本語教育史という科目の開講状況から判断し、関係者の間でその意義が共有されているとは言い難い。こうした状況に対処すべく、『日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的研究』（課題番号 12520531 平成 21 年度～平成 23 年度）では、有史以来の日本語学習の史実について、どのような切り口からどのような知見が得られるのか、また、日本のみではなく海外の学習者の視点を取り入れ、ともに学んでいくためには、どのような視点が必要なのかといった点について議論した。この議論を踏まえて、クラスでの使用を想定したテキスト（小冊子）『日本語をめぐる国際交流史』を作成した。しかし、当分野の専門家は多いとは言えず、また、担当教員がすべての地域や時代を扱えるわけではないという状況を考慮し、留学生を含む、若い学生たちの多様な関心に応えつつ、当分野を輪郭や意義を広く伝えるためには、テキストの作成に加え、自ら先行研究を読み解き、あらたな歴史資料を用いて自律的に研究がすすめられるしくみをウェブ上に構築することが必要だと考えるに至った。

2. 研究の目的

歴史資料のデジタル化とウェブ上での公開が急速に進んでいる。こうした歴史資料に直接触れることは、当分野への関心を高めることにもつながる。新しい研究への萌芽を刺激し、個々が自律的に取り組むしくみを作るために、その糸口として、資料情報とともに、研究テーマや先行研究に関する情報の提供・公開を行いながら日本語教育史の輪郭を

示す。一方で、日本資料の保存や公開をテーマとした専門会議（European Association of Japanese Resource Specialists, 2012 年ベルリン、2013 年パリで開催）に参加し、海外の最新情報の収集を兼ね、自身の研究成果を発信し、海外ネットワークの中で相互の情報交換を行う。

3. 研究の方法

『日本語教育・学習史のホームページ』に掲載するコンテンツは、次のような手順で作成した。2012 年度から 2014 年度に担当した授業（日本語教育史をテーマとする）において、テキスト（小冊子『日本語をめぐる国際交流史』）の流れに沿って、受講生が取り組む課題（史実を追究するテーマ、時代を超えて言語教育一般についての考察を促すテーマ）と資料情報を提示した。また、史実をウェブ上のデジタル資料（データベース、ウェブ展など）にアクセスして確認する作業も課した。これらの授業での試行からコンテンツを選択し、中国語版も作成した。さらに、「コトバ」第 2 期（1939 年 10 月～1950 年 2 月、国語文化研究所による海外への日本語普及、日本語教育の関連情報を掲載した日本語教育史研究の基礎資料）の冊子を作成するとともに、電子データ化した。本資料も、データベースの一つとして、ホームページに掲載した。

4. 研究成果

『日本語教育・学習史のホームページ』の主なコンテンツは、1. 資料 2. 研究テーマと文献 の紹介である。2. に関しては、国内外から当該分野の研究に積極的に取り組めるよう次の観点を重視した。1) 日本とともに、海外（学習者・推進者）の視点も含めること、2) 海外資料に基づいた研究成果や関連領域（文化交流史、各国の日本研究史、

植民地研究史、キリスト教史研究、海外の中国研究史など)の成果も先行研究として積極的に取り入れること、3) 対外交流を支えてきた通訳の活動、日本語学習の需要を創出した社会背景、また、日本語学習から派生した交流もその範囲とし、より多くの関心を取り込むこと、である。授業では、これらの課題に取り組んだことにより、今日の言語教育や国際交流の理念を考えるためのヒントが得られたとの肯定的なコメントが寄せられた。一方、報告者ら自らも、国内外の関連分野でのこれまでの研究発信を下記5. のように行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

- Yoshimi OGAWA, Chikako SHIGEMORI BUČAR, Do Cyong-Ho as Lecturer for Japanese Language in Vienna: Materials from Finland and Japan, New findings on early informal exchange and personal relations between Koreans and citizens or either the Austrian-Hungarian monarchy or its states successors,,Praesen,Vienna, Austria, 2015 (forthcoming)
 - 小川 誉子美, 新聞が報じた日本語教育—日露戦争前後の極東ロシア—, ことばと文字, 査読無、第2号、2014、pp.27-33、2014
 - 小川 誉子美, ラムステッドと日本語学者たち—フィンランド側の資料をもとに—, ユーラシア都市文化叢書 2 沿バルト海の都市 - ヘルシンキ、サンクト・ペテルブルグ、ベルリン -、査読無、2014、pp.3-18
 - 小川 誉子美, 漢字知識の活かし方—草創期来日外国人の漢字使用—, 総合学術学会誌, 査読有、第13号、2014、pp.3-9
 - 小川 誉子美・重盛千香子, ウィーン領事養成学校の日本語講師 Do Cyong-Ho について—フィンランドと日本の資料による新解釈—, 日本語・日本語教育の研究—その今、その歴史、査読有、2013、pp.215-226
 - 河路由佳, ドナルド・キーン先生と漢字・ローマ字、ことばと文字、査読無、3号、2015、pp.174-180
 - 河路由佳, 戦時下日本発信の「やさしい日本語」から学べること—国際文化振興会『日本のことば』と『NIPPONGO』—, ことばと文字、査読無、2号、2014、pp.75-82
 - 河路由佳, パラオにおける日本語の使用状況についての調査、紐帯としての日本語 研究成果報告書、2014、pp.19-25
 - 河路由佳, 学習者・教師の「語り」を聞くということ—「日本語教育学」が「学」であるために、リテラシーズ、査読有、14、2014、pp.29-44
 - 河路由佳, 戦時期の日本語普及事業と松宮弥平・松宮一也—日本語教師養成事業をめぐる官民論争に着目して—, 日本語・日本語教育の研究—その今、その歴史、査読有、2013、pp.227-239
 - 河路由佳, 長沼直兄の戦前・戦中・戦後—激動の時代を貫いた言語教育者としての信念を考える、日本語教育研究、査読有、58、2012、pp.1-24
 - 河路由佳, 1943年・仏印から日本への最後のベトナム人私費留学生とベトナム独立運動—チェン・ドク・タン・フォン(陳徳清風)さん—, 日本オーラル・ヒストリー研究、査読有、8巻、2012、pp.163-175
- [学会発表](計13件)
- Yoshimi OGAWA, Research Sources on Language Teaching and Politics: Japanese language education in Pre-war Europe, Research and Study Possibilities in and on Japan, University of Helsinki, Finland, 2015
 - 小川 誉子美, ロシア・イギリスの対日政策と日本語教育—20世紀初頭の報道記事から、日本総合学術学会秋季大会、東京工業大学CICキャンパスイノベーションセンター、2014
 - 小川 誉子美, 欧州の留学生日本語講師、中国人留学生史研究会、神奈川大学、2013
 - 小川 誉子美, ラムステッドと研究交流—泉井久之助らを中心に—, 村山七郎記念日本言語研究会、長岡京市中央生涯学習センター、2013

— Yoshimi OGAWA, Japanese Teachers in Prewar Italy and France: Insights from Various Materials, European Association of Japanese Resource Specialists (EAJRS) 2013 Paris Conference, Bibliothèque universitaire des langues et civilisations (BULAC) France, 2013

— 小川誉子美, 日本語研究と実用日本語講座 - 19世紀の欧州の事例から -, 日本総合学会 2013 年度秋季大会、広島大学東京オフィス、2013

— Yoshimi OGAWA, Chikako SHIGEMORI BUČAR, Do Cyong-Ho as Lecturer for Japanese Language in Vienna: Materials from Finland and Japan New findings on early informal exchange and personal relations between Koreans and citizens or either the Austrian-Hungarian monarchy or its Successor-states, University of Vienna, Austria, 2012

— 小川誉子美・河路由佳, 『日本語をめぐる国際交流史』の内容と意義—日本語教育史のテキスト作成に向けて—, 2012 日本語教育国際研究大会、名古屋大学、2012

— Yoshimi OGAWA, Chikako SHIGEMORI BUČAR, The Japanese language instruction in Germany and Austria before 1945: knowledge and information obtained by multifaceted research, EAJRS 2012, European Association of Japanese Resource Specialists, Bridging the gaps past and present Japanese resources in the digital age, Staatsbibliothek zu Berlin, Germany, 2012

— 河路由佳, 現代パラオにおける日本語—人々による日本語使用とその学習の諸相—, 公開研究会、紐帯としての日本語—『日本』を離れた日本語, 東京外国語大学国際日本研究センター社会言語部門主催、東京外国語大学、2014

— 河路由佳, 遠星北斗『コタン』(1930)について—口語短歌に出会ったアイヌの青年歌人が遺したもの—, 十月会集會, 豊島区民センター、2014

— 河路由佳, 東京外国語大学長沼直兄文庫について、日本語教育史研究会 2013 年度第1回研究会、東京外国語大学、2013

— 河路由佳, 紐帯としての日本語 パラオ予備調査報告, 2011 - 2013 年度科学研究

費補助金(B) 紐帯としての日本語 日本人社会、日系コミュニティ「日本語人」の生活言語誌研究報告会、研究代表者：野本京子、東京外国語大学、2012

〔図書〕(計2件)

ドナルド・キーン・河路由佳『ドナルド・キーン わたしの日本語修行』白水社、2014

河路由佳『中島敦「マリヤン」とモデルのマリア・ギボン』港の人、2014

〔その他〕

ホームページ等

日本語教育・学習史のページ

<http://ynu-isc-kokusai.jimdo.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 誉子美 (OGAWA, Yoshimi)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号：50251773

(2) 研究分担者

河路 由佳 (KAWAJI, Yuka)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：00272641